



「世界の平和を考える」シリーズ 第2回

SDGs(持続可能な開発目標)の達成は平和な社会が礎



佐藤 重松

貧困や飢えから開放され、健康に暮らす。教育がいきわたり、誰もが平等な社会。気候変動を抑え海や陸の豊かさを守る。などを具体化し、17のゴールと169のターゲットを掲げた。これが、国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)です。

1) 21世紀の課題「世界が抱える南北問題」

先進国は北半球に多くあり途上国は南半球に多く、先進国と途上国との格差が拡大し続け、国連は1950年代後半に南北問題として本格的に取り組みはじめました。

現在ではIMF、世銀、OECD、WTOなどの国際機関に於いて共同援助の態勢をかためています。

2) MDGs (ミレニアム開発目標)

2000年9月に開催された国連ミレニアム・サミットに於いて21世紀に向けた国際社会の目標として、安全で豊かな世界を作るための「国連ミレニアム宣言」が採択されました。

MDGsは、2015年までに貧困や飢餓、差別の撲滅などを掲げ、最も良い成果を出したのが「極度の貧困と飢餓の撲滅」といわれています。

3) MDGsからSDGs(持続可能な開発目標)へ

2016年に、途上国との格差拡大が緩和されないまま、近年先進国内に於いても格差の広がりが顕著で、貧困問題は世界的に顕在化しています。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された17のゴール・169のターゲットについて(過日HPに掲載)更なる理解を得るために、各項目が相互に関連する5つのPについて記します。



1. Peace (平和)

恐れや暴力の無い平和で公正な社会を育む。民主的正義、紛争終結、難民、移民、犯罪、家庭内暴力の防止や解決。

2. Partnership (パートナーシップ)

特に最も貧しく、最も脆弱な人々のニーズに焦点を当てて世界的連帯の精神に基づいてアジェンダを実施する。開発援助・協力。

3. People (人間)

貧困と飢餓に終止符を打ち、すべての人間が尊厳と平等、健康の下にその持てる能力を発揮できる事。貧困、飢餓をなくす教育、医療を全ての人に。

4. Planet (地球)

持続可能な消費と生産、天然資源の管理、気候変動に関する緊急行動をとり、地球を破壊から守る。温暖化防止・生物多様化の損失防止。

5. Prosperity (繁栄)

全ての人々が豊かで充実した生活を送ることができること。経済的、社会的および技術的な進歩が自然と調和する。

経済成長、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)公正な労働条件、ジェンダー平等、障がい者や弱い立場の人・国や地域の尊重。

以上のように、SDGsは、途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても、政府、民間企業、NGO、個人が積極的に取り組んで行くべき課題です。

4) 崇高な目標(SDGs)の対極で覇権の争い

大国に於ける政治・経済・軍事の覇権主義は、今や領土領海領空に止まらず宇宙まで拡大しており、絶え間なく“世界の平和”は脅かされ、同時に病める地球の病巣は深刻さを極めていきます。

“平和なくしてSDGsなし、SDGs達成なくして平和なし”の一体不可分な相関関係にあります。

加えて、昨年から現在なお続く新型コロナウイルス感染症のパンデミックはSDGsの遅れを余儀なくし、様々な面で格差の広がりが憂慮されます。

5) SDGsは身近な生活の中にあります!

＝わが事として取り組める項目で実践を＝

地球環境と気候変動、貧困と飢餓、医療と福祉等個人として、ところざわ倶楽部として出来ること地道な活動の集積が一滴から大河へと続きます。

- ① プラスチックや生ゴミの軽減に努力
- ② 節電や上下水節約・自然エネルギーの活用
- ③ 家庭に於いてもフードロスを出さない
- ④ 子どもの貧困化への支援(フードバンク)
- ⑤ 地域の自然環境を守る取り組みへの参加
- ⑥ 障がい者や高齢者への多面的支援
- ⑦ 住み続けられるまち、地域づくりへの参加

<身近な実践で誰もがSDGsへの参加を!!>
自然や人に対して優しい心が平和な社会を醸成